



「服の日」



はいたい。ぐすーよー ちゅーうがなびら。なー2月なてい、いちゆなさる時期やいびーんやー。

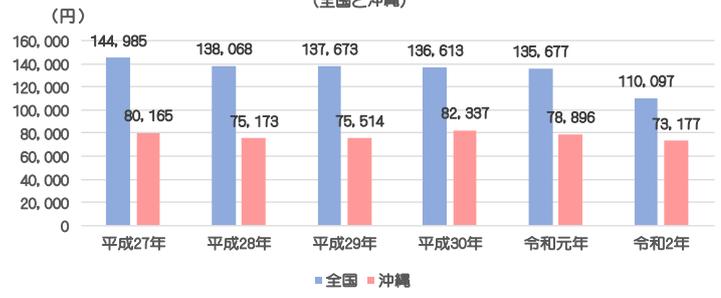
2月は日本では「如月(きさらぎ)」とよばれますが、この語源は、厳しい寒さに耐えるため重ね着をするという意味の「衣更着」であるとの説があります。

2月9日は「服の日」です。平成3年(1991年)、日本ファッション教育振興協会及び全国服飾学校協会などが「2(ふ)」「9(く)」の語呂合わせから決めました。

「服の日」にちなんで今月は、1世帯当たりの「被服及び履物」「和服」「洋服」の支出金額を調べてみました。

まず、最初に、『図1「被服及び履物」の1世帯当たりの年間支出金額(全国と沖縄)』の推移をみてみましょう。

図1 「被服及び履物」の1世帯当たり年間支出金額 (全国と沖縄)



全国値は、平成27年の144,985円から令和2年の110,097円と減少しています。

一方、沖縄も増加と減少を繰り返しながら減少傾向となっています。



続いて、「和服(図2)」及び「洋服(図3)」の1世帯当たり年間支出金額(全国と沖縄)をみてみましょう。

まず、「和服」ですが、全国値は、平成27年の2,506円から令和2年1,395円と約44%の減少、沖縄は、平成27年の400円から令和2年の86円と約78%の減少となっていて、沖縄の減少率が大きいことが分かります。

次に「洋服」ですが、全国値は、平成27年の57,095円から令和2年の43,886円と約23%の減少、沖縄は、平成27年の30,524円から令和2年の29,194円と約4%の減少となっていて、全国値の減少率が大きいことが分かります。

図2 「和服」の1世帯当たり年間支出金額 (全国と沖縄)

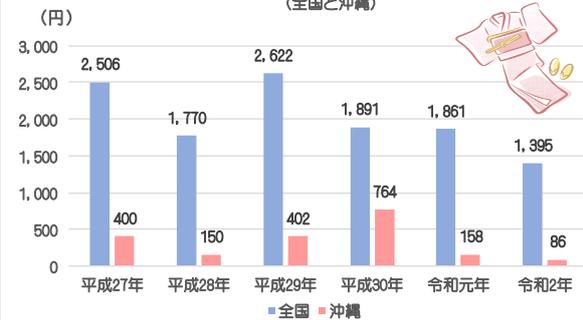
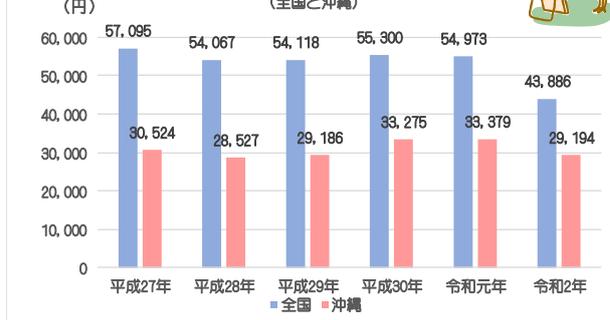


図3 「洋服」の1世帯当たり年間支出金額 (全国と沖縄)



最後に、世帯主の年齢階級別に「被服及び履物」及び「被服賃借料」の年間支出金額を平成26年と令和2年についてみてみましょう(図4、図5)。

まず、「被服及び履物」(図4)では、すべての年齢階級において支出金額が減少しています。

一方、「被服賃借料」(図5)では、70歳以上を除くすべての年齢階級で、支出金額が増加しており、特に、50歳~59歳の世帯の支出が増えています。

図4 「被服及び履物」の世帯主の年齢階級別1世帯当たり年間支出金額(平成26年・令和2年)

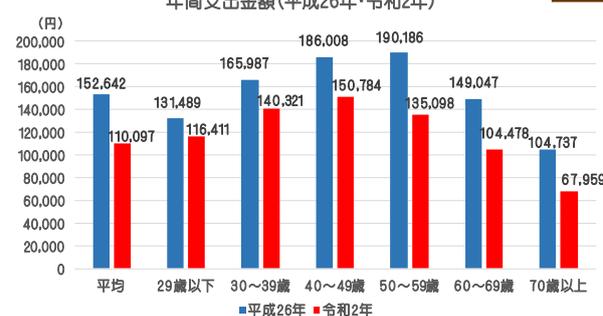
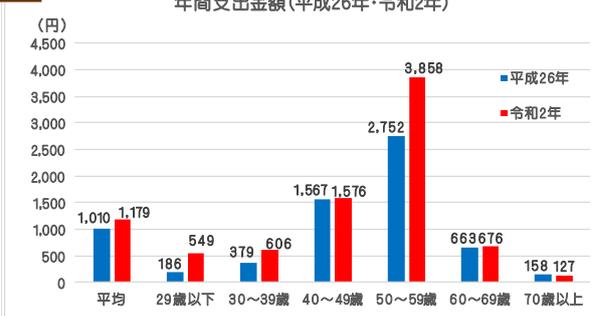


図5 「被服賃借料」の世帯主の年齢階級別1世帯当たり年間支出金額(平成26年・令和2年)



資料:図1~図5 総務省統計局「家計調査」より

家計調査結果では、様々な品目について、地域別、年齢階級別の支出金額や購入数量などを確認することができますので、気になる品目について調べてみては、いかがでしょうか。